



心因性脱毛症って?

ストレスが原因となり過剰に毛づくろいをして起こる皮膚疾患

猫は不安やストレスを感じると、同じ行動を繰り返して、気持ちを落ち着かせようとします。

とくに多いのは前足・内もも・お腹・お尻などのなめやすい部位を、かゆくもないのに過剰に毛づくろいする行動。

猫の舌はザラザラしているため、やがて特定の部位が脱毛し、さらには皮膚炎を起こします。

主な 症状



- 体の一部分を過剰に毛づくろいする、毛をガジガジと噛み切る
- 部分的に脱毛する、毛が薄くなる など

どんな性格の猫がなりやすい?

心因性脱毛症を発症しやすいのは、神経質や臆病な性格の猫だといわれています。ただ、猫はもともと毛づくろいに時間を費やしているうえ、不安を感じたときに、いつも以上に毛づくろいして、気持ちを落ち着かせようとするもの。そのような習性から、どのような性格の猫でも発症する可能性はあります。

原因

どういうことがストレスの原因に?

猫が感じる大きなストレスに住居環境の変化があげられます。たとえば、引っ越しや模様替えなど。そのほかは、家の外の工事などの騒音、留守番時間が長くなるなど飼い主さんの生活パターンの変化、家族構成の変化、新しい猫を迎えた、慣れ親しんだおもちゃを取り換えた、などが考えられます。

心因性ではありませんが、最近は柑橘系の洗浄剤(クリーナー)による、皮膚トラブルが増えています。柑橘類に含まれる成分に猫が触れることで、皮膚炎を起こすケースがあるので、洗浄剤で床掃除などした際は注意しましょう。



治療法

脱毛の症状が見られた場合は、ほかの病気の可能性もあるので、まずは動物病院で受診しましょう。検査を受けて心因性と診断されたら、ストレスの原因を取り除くことが一番の治療法になります。また、心を落ち着かせる効果が望めるサプリメントや、薬が処方されることもあります。ストレスが原因で起こる心因性脱毛症の場合は、そのときと同様の強いストレスを感じると、再発することがあります。似た症状にアレルギー性皮膚炎などもあるので、ブラッシングなどの際に被毛の状態をチェックして、気になることがあれば早めに受診することをおすすめします。

ねこに多い病気、そこが知りたい! は「ねこのきもち」で連載中!

●こちらは、掲載した記事を再編集したものです。

アニコム損保ご契約者が
マイページから定期購読を申込みと
2号 (2ヶ月分) **無料!!**